

9 . 河 道 特 性

留萌川は、留萌市の中央部を流れ、流域面積は 270 km²、幹川流路延長 44 km の一級河川である。流域は、三角形に近い形状をなし、大部分が山地で占められ、狭い平地部を蛇行しながら流れており、河床は上流部が急勾配で下流に行くにしたがって緩くなっている。河口から 5 km くらいまでが感潮域である。河川敷は、全般的に狭く高水敷はほとんどない。

(1) 上流部 (KP15 ~ KP25.2)

上流部も山沿いを流れている部分が多く河道内に樹木が茂っており、高水敷はない。河床勾配は 1/1,100 ~ 1/450 と急勾配になっており、河床材料は砂礫で礫の量が 7 ~ 8 割を占めている。

(2) 中流部 (KP5 ~ KP15)

中流部は、山沿いを流れている部分が多く蛇行が目立つ。河道内に樹木が茂っている。河川敷幅は狭く、高水敷はほとんどない。

河床勾配は 1/2,500 ~ 1/1,100 となっており、河床材料は砂礫で上流に行くにしたがって礫の量が増える傾向にあるが、明瞭な瀬や淵は見られない。

(3) 下流部 (KP-0 ~ KP5)

下流部は、激特事業によりほぼ改修が完了しており、河道内に樹木は見られない。河川敷幅は狭く高水敷もほとんど見られない。

河床勾配は 1/5,000 ~ 1/2,500 と緩く感潮区間となっている。河床材料は KP2.0 までは、シルト及び細砂が多く、上流に行くにしたがって砂及び礫が増えてくる。